Jao ニュース

３８２号　２０２３年９月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
ＵＲＬ　https://jaoclub.com/

事務局だより

１．８月１日現在の会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
40	38	32	29	139 名（E グループ会員：126 名）

８月入会　　吉川 祐正氏（ベイサイド）

２．運営委員会より
７月の運営委員会の協議結果に基づき、じゃおニュースの「会員だより」他の記事について検討を行うため、８月 31 日（木）にじゃおニュース関係者によるオンライン会議を開催する予定です。

３．次回の運営委員会
日時：2023 年 9 月 24 日（日）10:00～12:00　オンライン開催
議長：大澤委員、書記：高橋委員

ホームページ・サークルの会議に参加しませんか

じゃおクラブのホームページは、ホームページ・サークルが運営しています。ホームページは、会員の方々には「じゃおクラブの今」を伝え、一般の方々には「じゃおクラブ」が、お互いの交流や社会参加に役立つことを伝えています。

今回より、ホームページ・サークルの会議へのオープン参加を募ることにしました。ホームページの制作や運営に関心をお持ちの方がありましたら、会議に参加されませんか。次回は下記の予定です。

８人が集まって、ワイワイ、ガヤガヤやっています。（運営委員、多摩・田園　竹内　純一）

- 10 月 26 日（木）17 時～18 時半　オンライン開催（Zoom を使用します）
  - ❖ お仕事をお持ちの方も参加しやすいよう、夕方の時間帯にしました。
  - ❖ 参加ご希望の方は、10 月 21 日（土）までに多摩・田園の竹内までメールをお願いします。
  - ❖ お問い合わせも、お気軽に竹内まで。
  - ❖ Zoom 初心者の方には事前勉強会を行います。

会員だより

ときには二人で

湘南　宮澤　進

毎日が日曜となって 15 年になる。厚生省の統計による私の平均余命は残すところ後 10 年強、その間は願わくは健康寿命で過ごしたいものである。健康の手立てとして、「遊びをせんとや生まれけん」を座右の銘とし惚けている。「じゃお」での活動は自身の健康維持に大きなウエートを占めているが、旅もまたしかり。

旅には色々な旅がある。分類はあくまで我流であるが自由気ままな一人旅、俳句の仲間との吟行旅、物見遊山の旅行会社企画の旅、スタディツアーなどなど。数ある旅の中で重きを置いているのが、妻との二人旅である。我が家の日常は二人とも趣味も違えば活動の場も大分違う。一緒になるのは朝夕の食事と夜だけというのが大方だ。

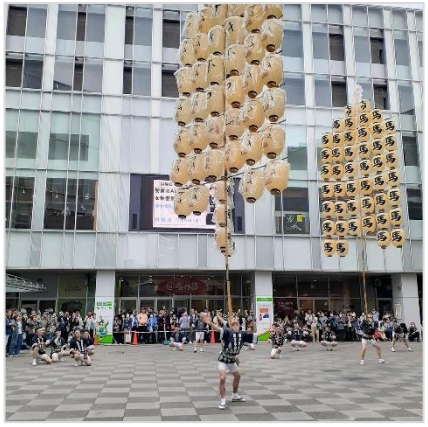
何時からか想い出作りに二人で旅をすることを共通の行事として大切にするようになった。二人の都合の良い日は今のところあまりないが、お互い意識してつくるようにしている。二人の旅としているが先に分類した旅のいくつかの中に加わることもある。

直近は 5 月の秋田芸術村への二人旅である。当初ネット（旅行会社経由）での企画であったが、妻に急用が入りキャンセル。ささやかではあるが旅の目的が「わらび座」をもりたてる地域支援の意味合いもあったので、別の日に再びネット申し込みを試みた。しかし空きがないと、そっけない応答であった。そこで、だめもとと思いながらも直接わらび座の宿（芸術村の宿）に電話してみた。すると、修学旅行の生徒ばかりだが今のところ空き部屋はあるとの返事。それでよいのでとお願いすると、なんと簡単に宿がとれ二人旅ができることになった。

旅費精算時に分かったことだが、宿泊費が観劇とセットだったため観劇代が大幅に割引となっていた。併せてコロナ禍での旅行であったため地域支援クーポンのサービスも付いていた。結果的に旅行会社経由の旅行より（大人の休日クラブも利用）割安の旅行となった。宿では食事もサービスもまずまずだった。中間搾取がない分安いのかなとなんとなく納得。

旅行会社を通さない二人旅のよいところは、気に入ったところで心行くまで時間がとれることにある。芸術村ではミュージカル鑑賞、近辺の自由散策を楽しんだ。散策では姫奢莪（初めて見る）・雪柳・青桐・夏椿などにふれ鋭気を養うことができた。

・姫奢莪の小径や妻の歩にあはす
・荷を解く旅の一座や二重虹



翌日角館はパス、秋田市内の千秋公園や美術館などを見学した。その日はたまたま秋田市に豪華客船ツアーの団体が着いたところで、豪華客船が手配したとみられる催し物が始まるところだった。演目は秋田を代表する「秋田芸者のお披露目」、「竿灯の曲芸」、「なまはげ」などだった。運の良いことに最前列の席に座ることができ 2 時間ほど楽しませてもらった。結果当初の目的も果たし余禄にも恵まれ良い想い出ができた。健康寿命が続くうちはこれからもこんな二人旅を続けたいと思っている。

記憶に残る日について

湘南　宮越　正敏

誰でも記憶に残る日（記念日など）があると思いますが、如何でしょうか。私の記憶に残る日について紹介します。

記憶に残る日の一つは 11 月 1 日でした。「でした」と過去形になっている理由は後述します。11 月 1 日を詳しく説明すると私が住む藤沢市で幼稚園の入園申込み日であったのです。当時 藤沢市での入園申込方法は

(1) 抽選（申込みが定員超過の場合）

(2) 先着順（当日所定枚数の申込書を配布）

…の二種類でした。

私には二人の娘が居てどちらも入園申し込みは記憶に残る出来事がありました。記憶に残る内容は次のとおりです。

(1) 上の娘の場合（抽選で入園者を決める幼稚園へ応募）

- 透明な抽選箱が置かれた部屋で他の応募者と共に待機し、応募者が入室する度に「定員まで残り何人」とドキドキしていたこと
- 締め切り時刻になり定員未達で「全員入園可」を告げられた時、大歓声が上がったこと
- 抽選外れの保険に別の幼稚園へ妻が下の娘を連れて出向いていたのをギリギリで申込みを止めたこと
- 帰り道の公園で派手な夫婦喧嘩を目撃したこと（幼稚園の別の学年では抽選になったようでした）「アンタのくじ運が悪いから…」と大声で旦那を罵倒する奥さんの剣幕が凄かった!

(2) 下の娘の場合（先着順の幼稚園へ応募）

- 冷たい雨の中 5 時に並んで二番目となり安心して申し込み開始時刻を待ったこと（でも寒かった）
- 他に並んでいる人達は交代要員が来ていたが、心の余裕からか羨ましいとは思わなかったこと
- 無事入園申込書をもらった時は雨が上がり、達成感一杯で帰宅したこと

二回の申し込み共 他愛の無いことですが、十分記憶に残る出来事でした。

しかし最近は 11 月 1 日を素通りし、二週間以上過ぎてから思い出すようになりました。また、別の記憶に残る日も素通りすることが多くなりました。

初めて運転免許証を取得した日、大好きだった〇〇ちゃんの誕生日、入籍の日など 当日になると以前はシッカリ思い出していましたが、最近はサッパリです。どうして思い出さなくなったか理由を挙げてみると、

その 1：日々の生活に追われ、一日一日を振り返る余裕が無い

その 2：加齢による記憶の希薄化

その 3：未来の予定消化に注力し、過去を気にしなくなった

理由その 3 を未来志向と言えばカッコ良いのですが、理由その 1 と 2 の方が濃厚かなー！？

今思うこと。

これからも嬉しかったこと、辛かったことなど色んな記憶に残る日が出来ることと思います。未来志向で良好な記憶に残る日をつくることを目指していきます。（生きます）

じゃおクラブの活動で楽しい記憶に残る日が出来ることも期待しています。

NHK ラジオ深夜便と「へちま」

ベイサイド　村尾　篤彦

NHK ラジオ深夜便をこの番組が始まった時から聴いている。もう 33 年間になる。この番組は 1990 年 4 月 28 日から始まったが、番組を始めるにあたり NHK は事前にかなり詳細な調査を行い「中高年で自宅に引きこもり、夜間の時間つぶしに苦労している方が数百万人いる事、中々眠れないことに悩んでいる人が多数いること」を番組開始前に調査結果として報告している。

時はちょうど、戦後最大のバブル経済が崩壊し 38900 円の株価が一挙に 20000 円台まで暴落し、多くのサラリーマンが、失職あるいは希望退職、望まない職場への転換配置に追い込まれた時期でもある。失業、あるいは希望退職したサラリーマンは世間的に**「ぬれ落ち葉族」**などと呼ばれたと記憶している。一方、自宅の奥さん達は地域活動に居場所を見つけ、あるいは気の合った仲間と趣味のサークルを作り「亭主元気で留守が良い」などとを言っていた時期でもある。

そのような状況の時に亭主が常時、自宅に居り、ごろごろして「飯だ、風呂だ」などと亭主風をふかし、奥さんが外出時には「俺も行く」と言ってつい家から出てくる（濡れた落ち葉のようにベタベタし、付いたら離れない）といって嫌がられた。

同時期の 1991 年 7 月に「じゃおクラブ」の設立総会が開かれ、現在のように活動している。このクラブも自宅でブラブラしている男性陣を何とか、戸外に出しクリエィテブな活動をしてほしいという主旨からスタートした。このあたりの事情は年長のじゃお会員の諸兄はご存じであろう。

小生は 2005 年 9 月、当時の率川代表・早川副代表がこの深夜便で「じゃおクラブの PR」を聴いて即、入会した(確かこの番組を聴いて 4～5 人が入会したと記憶している)。従って、この番組は当初から中高年層を対象に企画され、多少の内容の変更はあるが 33 年間、開始時間の 23 時から翌朝 5 時の終了まで番組の構成はほとんど変わっていない。

小生の場合、この番組の始まった頃は寝付きが悪く番組の初めの部分を聴いていることが多かったが、最近は睡眠導入剤の力を借りて始めの部分は就寝し、番組の後半部分を聴いていることが多い。4 時間睡眠型の小生にとっては午前 3 時～4 時に目が覚めることが普通である。今年のように夜間でも高温が続いている場合はかなり厳しい毎日である。

2005 年以来、この番組の最後の午前 4 時 55 分前後に、アナウンサーが視聴者の中でその日、生まれた人に「**誕生日の花**」と「**その花の花言葉**」を紹介し「おめでとうございます」というのが恒例となった。

小生は **8 月 10 日生まれ**で誕生日の花は**「へちま」**、花言葉は**「悠々自適」**とのことである。

「**へちま**」が誕生日の花と聞いて、小生は何で？との感を持った。

便覧で調べると「へちま」の花は意外と可憐である。花の直径は約 5 ㎝、キュウリやひょうたんと同じウリ科に属し江戸時代インドから渡来したとある。「へちま」から連想するのは「へちまたわし」や美容水としての「へちま水」であり、花そのものではないが、これを機に興味を持ちたい。来年あたり庭に植えてみようかな。とも思っている。

花言葉の**「悠々自適」**はどうであろう。年齢からくる身体の衰えから心臓の検査、大腸の検査などと病院での検査、通院に追いまくられ、とても「悠々自適」の精神構造にはなれない今日この頃である。

写真の楽しみ方いろいろ

湘南　村田　和彦

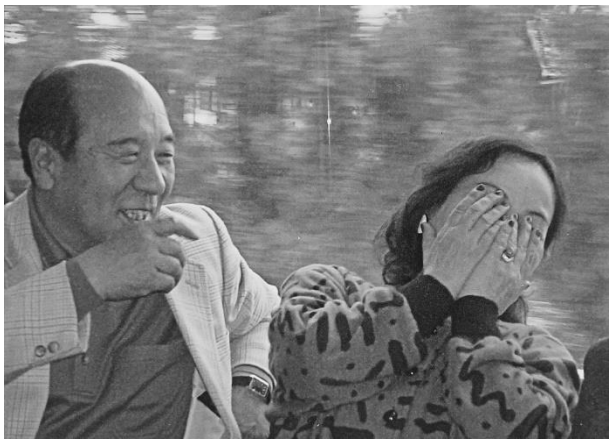
定年後、暇つぶしにと地元の写真サークルに入会しました。そのなかで講師の指導により手作り写真集を作りました。すなわち写真に簡単なコメントをつけた、この世に一冊しかない手作りの写真集です。

最初に作ったのが小学校の同窓会で、伊香保温泉に行った時のスナップ写真をまとめた写真集です。御多分に漏れず我がクラスもおばさんパワー全開です。そのパワーを賛美した（？）コメントをつけ写真集としてまとめました。題して「おばさんの道行き」。

この写真集が講師から高い評価を得たため、「馬鹿と煙は高いところへ上る」ではありませんが、その気になり手作り写真集を作り続けています。新宿の思い出横丁、東大本郷キャンパス前にある落第横丁など都内の横丁巡りをした「横丁散策」、東京に残っている江戸の香り、江戸城、追分、時の鐘、刑場跡などをまとめた「東京に見つけた江戸」などなど現在までに 36 冊を完成しています。

現在もなお、アーチ橋、斜張橋など色々な構造の橋が架かっており、橋の博物館と言われている隅田川の橋の写真集、藤沢市内の「江の島」のような観光地ではなく、地元の隠れた景色を求めた「藤沢百景」を作成中です。

「おばさんの道行き」より　その一部を紹介します



反 省

「昨晩の飲みっぷりはすごかったね」
「あら！いやだ」
キッチンで鍛えた実力がついつい出て
＜おばさんにも、時々羞恥心が戻る＞

面倒み

みんな揃ったのかな
バスで移動時も一人も残さぬよう注意
面倒みの良いのもおばさんの特徴
＜時々見なくてもよい面倒も見ますが＞

じゃおクラブ 4 年間の活動

湘南　安田　賢二

じゃお湘南には、藤沢市の「第 10 回地域活動見本市」に参加し、2019 年 9 月に入会しました。入会から今年で丸 4 年になり、じゃおクラブでの主な活動の内容をまとめてみました。

1.　チャレンジ農園を開始　2021 年 4 月～

じゃお湘南では、主に農園作業に参加して 1 年半経過した 2021 年 4 月から「チャレンジ農園」を開始しました。「チャレンジ農園」2 年目の 2022 年 5 月からは、南瓜（カボチャ）の空中栽培にチャレンジしました。

南瓜の空中栽培とは、支柱を設置しキュウリネットを張り苗の枝を紐でネットに誘引して栽培する方法です。2 年目は、狭い畑に 2 株を植付け大小の南瓜が 12 個収穫できました。**（写真：空中栽培の南瓜）**

3 年目の今年は、南瓜と西瓜（スイカ）を空中栽培しました。南瓜は、4 株で 14 個、西瓜は 2 株で 4 個収穫できました。しかし、昨年より今年は気温が高く雨がほとんど降らなかったからか、少し小さめの成果でした。来年も、チャレンジできればと考えています。

2.　運営委員会、HP サークル(WordPress による HP の管理等)に参加　2022 年 4 月～

じゃおに入会し 2 年経過した頃、湘南の先輩の世話役の方々からのお話があり、運営委員会とホームページサークル（HP サークル）に 2022 年 4 月から参加しています。

個人的には現在も週 2 日間会社に勤務しており、別の任意団体の代表世話役をしているため日程等の調整がつくか心配でした。今のところ、運営委員会等の会合がオンラインで行うことがほとんどなので、何とか務まっています。特に、HP サークルは、WordPress によりじゃおのホームページの管理等を行うとのことで、知識経験のない事柄なので心配でした。HP サークルの竹内様や皆様のご指導により、何とか足手まといにならないようじゃおニュースの掲載やじゃお湘南の HP の管理等を担当しています。WordPress の使い方等の新しい知識の理解やパソコンの新調等に努めています。

3.　四木会（俳句）に参加　2022 年 6 月～

俳句については、全く学習したことが無かったので遠目に眺めていました。じゃお農園に参加している会員が四木会にもおられるので興味を持ち、2022 年 6 月から参加させていただいています。句会には、兼題 3 句と当季雑詠 2 句の計 5 句を事前に詠んで提出します。初めて参加した句会には、基本的な俳句の知識もない状態で、5 句を何とか提出しました。また、翌 7 月の横浜への吟行の時には、その場で見たものを俳句にすることの難しさを身に沁みました。俳句の基礎や季語の知識がない状態でしたので、早速、俳句の作り方の本と俳句歳時記を購入しました。現在、四木会に参加して 1 年 3 か月経過し、指導の廣﨑様や会員の皆様の励ましをいただきながら、何とか作句している状況です。

日本語（季語）の新しい知識等を得ることができ、外を歩いていてもモノの見方が少し違ってきたような気がします。四木会の HP のタイトルにあるように、『俳句を健康（肉体的健康、精神的健康、社会的健康）と介護予防に役立てるとともに、さらに一歩高めて文芸としての俳句を目指し、年をとっても人は成長する喜び（生きがい）を持てるよう』に努めていきたいと思います。

じゃお湘南

2023 年夏・じゃお湘南「収穫祭」

地球温暖化には歯止めがないようだ。今まで経験したことのない猛暑がこれでもかこれでもかと、連日繰り返されている。高齢化のすすむ湘南じゃお農園の面々には、耐久試験をされているような厳しい日々だ。猛暑の試練を受けているのはわれわれだけではない。野菜もしかり、雨不足に加え猛烈な日差しにさらされている。不思議と雑草だけは勢いが良く、参加者不足のため除草もままならず瀕死状態の野菜が散見される。

そんな訳で、今までのように収穫した野菜で収穫祭料理を賄うのは困難な状態である。そんななか、開催直前には担当世話役の都合がつかなくなるというハプニング発生。急遽準備体制の変更を行うなど、てんやわんやのすべりだしとなった。しかし、そんなことで挫けるじゃお湘南ではない。今日の日を楽しみにしている仲間、日ごろお世話になっている永田農園の社長さんと従業員の皆さんの期待に応えたいと一大奮起、あたえられた作業にそれぞれ全力をつくしてくれた。

収穫祭の買い出しは体調を崩しながらも前日から増田さんと私で買い物先のスーパーで待ち合わせて行った。この日も予想通り猛暑日であったが、買い物先の辻堂羽鳥のスーパー「トライアル」は平日の午前中にもわらず買い物客でごったがえしていた。買い物は、ギリギリ作成されていたメモを片手に食材をかたっぱしからカゴに放り込むというありさまで大変だった。

買ったものはというと、焼きそば用の麺 45 玉、木綿豆腐 12 丁、特盛り豚切り落とし 4P（3.8Kg）、2L のペットボトル 6 本、特大キャベツ 3 玉などで、たちまち籠が一杯になる。籠はあまりの重さでカートがきしむ。学生時代の合宿所での「賄い」の買い出しのようである。

食材を選ぶにあたり予算オーバーにならないよう吟味するが、生憎の物価上昇で前回より 2 割程高くつきそうだ。量が多いのではという気もしたので現地で再検討をする。

買い出しには増田さんと私の二人で行ったのだが、食材・飲み物を併せ総重量 30 キロオーバーのカートを押してレジに並んだり、3 階でコップ・紙皿、ゴミ袋等の消耗品類を購入したり、全てを 2 台の車に積み込んだところで頭がクラクラ。

家に着いて直ぐ大量の肉、豆腐、麺などを冷蔵庫に詰め込むが、すぐに扉が閉まらなくなり警告音が鳴るが無理やり押し込む。冷たい飲み物用のブロック氷 8 キロは空きスペースが全くないので、やむなく翌日の朝市で再度買い出しに行くはめに、やれやれである。

そして、迎えた収穫祭当日が先に話したようにハプニングから始まった次第である。私は調理担当だったが、不慣れで「肉入れて！」、「は、はい」。「全部入れて！」、「は、はいっ！」。もうもうと煙があがり、鉄板から勢いよく油が跳ねる。「ゴーヤ大 20 本、切り終わりました！」「そっちに、置いてっ！」何せ 45 人分のゴーヤーチャンプルーに焼きそばである。炒める量も半端ではない。「豆腐、入れて！」、「は、はいっ」。「どんどん、入れて！」リーダーから次々と指示が出るものの上からは強烈な日差し、コンクリートの足下からは容赦ない照り返し、前からは燃え盛る竈の炎に囲まれ頭が朦朧となる。この絶体絶命のピンチを救ってくれたのは我らが hero、F さんと T さん。真っ先に駆けつけると「（盛り付け用の）お皿、取ってきます！」「（食事会場に）持っていきます！」と八面六臂の大活躍。謝謝！また謝謝！すぐ隣の鉄板では、リーダーの K さんと新人の M・K さんが慣れた手つきで焼きそばの調理中。「ちょっと…味が足りない？」「塩胡椒…追加します！」抜群のチームワークである。ゴーヤーチャンプ

ルーとの格闘を終えて隣の手伝いに加わるが、2 周目の焼きに入った所で、そろそろ（乾杯を）始めると会場担当から声がかかる。大急ぎで焼き上がった麺を運んでもらう間に、一人だけ取り残される。「おーい、始まるよぉ…」まだ残っている麺が…焦げ始める。必死になってかき混ぜる。「ま、待ってぇー…」また、出遅れる。乾杯後は、みりん醤油が香ばしい焼きトウモロコシを頂く、これが旨い！更に小振りのジャガイモのまる揚げも出る。帰りには枝豆のお土産を配って、全員で片付けを終えた。

あたふたしたところもあったが、何とか今年の収穫祭も無事終了。参加者はじゃお：19 人、永田農園：22 人、合計：41 人だった。後日、永田農園の皆さんからもお礼の言葉があり、頑張った甲斐があった。永田農園さん他、会員有志からの差し入れもあり会計は黒字であった。お疲れさま！

（湘南　只野　尾矢治（早川　賢）記・古岡　實　写真・増田　勝男　記述協力）

「2023 年・じゃお湘南交流暑気払い・完璧」開催！

盛夏 8 月 6 日（日）に、2019 年以来の「じゃお湘南交流暑気払い・完璧」が、江ノ島入口ビュータワー3 階「湘南マリン」で開催され、じゃお湘南 17 人、ベイ 3 人、多摩・田園 2 人、県央 1 人の総勢 23 人の方々の参加で、久々に楽しい宴となりました。

コロナ感染が落ち着きを見せはじめましたが、今年は日本だけでなく地球規模で異常な猛暑が続いております。そのような中、例年よりやや少ない参加数ではありましたが、日頃のストレス・ウップンを晴らすような、活き活きとした交流暑気払いとなりました。

猛暑の中、今回も眼下の片瀬の海岸には、若い男女や子供連れの海水浴客・サーファーが行き交い、目の前に江の島、沖には大小のヨットが走る相模湾、また遠く雄大な富士を挟んで、ぐるりと伊豆・箱根、丹沢・大山、奥多摩などの連山の大パノラマ、湘南・江の島の地らしいロケーションでの中の交流暑気払い会が復活しました！

定刻 16 時、じゃお湘南・島村さんから開会挨拶と「完璧開催の歴史」を披露、威勢よく山本（達）さんの乾杯で開宴です。今年度新入会の湘南：岡田次郎さん・田邊　修さん・太地秀晴さん、多摩・田園：

馬場さんの紹介の後、お酒が過ぎない前にと、余興第1幕は、湘南2チームと混成1チームによる対抗ダーツゲームです。多少酔いも出始めたのか？なかなか的に当たらずの人が多い中、一人抜きんでた多摩・田園の竹内さんは最後まで独走！同時にチーム優勝。何処でダーツを覚えたのか？じゃおは過去を問わず？人間の過去はわかりません？これに対して、まぐれ当たりに大騒ぎの湘南2チーム…やはり実力どおり？の成績でしたが、（一応順位を付けて）2・3位の賞品はしっかりお持ち帰り。竹内さん率いる混成チームの圧倒的勝利でした！まあ愛嬌、お客をおもてなしというところかな？

お酒も進み、続いて第2幕の余興にはいりました。今回も20年もの間スタジオ会場を貸して貰っている「湘南ライセンス」の野口捷代社長にも、途中臨席していただきました。

大画面のTV映像と音響設備をセッテイングして、恒例（高齢？）歌声酒場の開宴です。今回は、野口社長の紹介で完璧2度目の登場、音響担当兼歌手？の平田さんのリードも入り、湘南・安田さんのパソコン操作を入れてカラオケリクエストに応えます。これは、かなり本格的な「湘南マリン・音楽スタジオ」と言えます。歌の善し悪しよりあっぱれ対応でした。時間超過は予想どおりではありましたが、私は進行が心配…。

もはや美味しいお酒や食べ物を前に皆さんは大懇親＝大混乱？状態。やはり若手を中心に元気な方が育ってきたのか？これからも、じゃおの皆さんは元気でいいですね！

そして第3幕は、恒例ビンゴゲーム。湘南マリンのスタッフも含め、今回は1・2・3位特別賞と全員に100均？の豪華お土産が行き届き、3時間の宴会も終わりに近づきました。

ここで自席に戻り起立！全員で湘南の故・米木達男さん作詞になる「じゃお湘南讃歌」の合唱を歌いきり、最後は湘南・廣﨑さんの一本締めで、19時無事お開きとなりました。

猛暑も乗り切り、今後もじゃおは健康で元気にじゃお活動を楽しんでいきましょう！

（湘南　増田　勝男　記・多摩・田園　竹内　純一　写真）

農園日記　―開設当時のじゃお農園 その②―

メンバーが作業し易いようにと永田さんに「農業用地下足袋」を斡旋して頂いた。普通の「地下足袋」は足の親指と小指を分けるタイプだが、この地下足袋は、つま先全体を包むタイプの布製で裏部はゴム製、軽快で地面の感触をつかめる優れものだった。

故米木農園長によると、当時のじゃお農園の集合時間は9時で解散は4時～5時だった。200坪の自主農園の一部に当初より、「チャレンジスペース」を設けていた。開園初年度の1996年度の活動日数が14日（概ね月1回）延参加者数は39名である。

初年度年間の収穫数量は下記の通り。

- トウモロコシ500本、枝豆400株、
- サツマイモ200kg、里芋300kg、
- 大根400本、白菜400本、
- 生姜200株、

驚くべき実績だった。作業日数と延参加数は年々増加し、1999 年から作業日数は月 3 回のペースになり 2000 年度には作業日数 44 日、延参加者数は 580 名(内県央他 94 名)に達したのである。収穫物は当初の 7 品目から長ネギ、タマネギを含む 12 品目に増加した。

（永田農園の手伝い風景）

初年度年間の援農は下記のとおり。

- トウモロコシ畑の間引き
- ブロッコリー苗、キャベツ苗の定植
- 草取り、
- モロヘイヤ畑の整地
- レタス苗箱の土入れ
- 里芋畑の麻シートはがし、南瓜畑の枯つる整理。

12 月の援農には発足前のじゃお県央から 5 名参加して総勢 18 名で作業している 12 月の里芋と南瓜畑の整理は近藤農園さん(FAPA 湘南)の畑だった。

地域じゃおの第 2 号として 1997 年 2 月 16 日にじゃお県央が発足したが、永田農園の一角に湘南同様に農地 200 坪の提供を受け 3 月から神崎健治さんを連絡先として「じゃお県央のじゃお農園」を開園した。作業日は湘南と別の日だったが、7 月の収穫祭と 11 月の芋煮会は合同で行った。

7 月に永田農園主催の「トウモロコシ収穫祭」が宇都母知神社境内で行われ、じゃおクラブから 15 名参加し、じゃお湘南は焼き鳥の出店を、じゃお県央はポテトガレットの出店を開いた。

生活クラブ生協の組合員の家族、FAPA 湘南の皆さんが参加して地域住民の皆さんと大いに盛り上がった。

（湘南　島村　忠男　記・山本　健介　写真）

じゃお県央

ピンポン

じゃおクラブに入って約 10 年になります。ピンポンクラブにはすぐ入りました。ピンポンは月 2 回行われています。場所は海老名市国分コミセンの 3F レクリエーション室です。

最近の参加者は 6 名が多いようです。6 名ですとピンポン台は 3 台となります。練習は一回 8 分間行い終わると左回りに一つ移動してすぐ始めます。6 人ですと球拾いが居なくなり、休み時間も無くなります。また 5 巡目に元の組合せになってしまいます。奇数、偶数にかかわらずこの方法に変わりはありません。これは一つのイニシエーションです。この方法で奇数人ですと球拾人も出来て順番もうまく回り、8 分間の休み時間も取れるのですが。

ピンポンのラケットにはペンホールドとシェイクハンドが有りますが、ペンホールドは長くピンポンをしている人に多く上手な気がします。

レクリエーション室は半分に分けて 2 グループで使っています。女性のバトミントンのグループとよく一緒になります。キャッキャ、キャッキャ大騒ぎしながら本当に楽しそうです。こちらまで楽しくなります。

楽しいと言えばコロナ前には 1F におもてなしコーナー？が有ってコーヒー等頂いた事が有ったのですが今はどうなっているのでしょうか。

コロナ時の 2020 年 3 月から 5 月までコミセンが休館になりました。また 2017 年 7 月から 2018 年 6 月までコミセンの耐震工事の為休館になりました。この時は担当者の尽力により勝瀬文化センターと国分寺台文化センターで交互にピンポンする事が出来ました。感謝に堪えませんし、良い思い出になりました。

10 年は短いようで長く色々有りました。ピンポンは軽いスポーツの様に思われていますがなかなかハードなスポーツだと思います。これからも運動不足解消や健康の為楽しく続けていきたいと思います。

（県央　原　建吾　記・県央　石川　武司　写真）

じゃお多摩・田園

青梅の街並みを撮影～グラファーズ８月撮影会～

今回、グラファーズは、８月１日に中央線青梅駅周辺の街並みで撮影会を実施しました。猛暑日が続く中でしたが当日は、状況に恵まれて曇りの天気で近隣では雨が降ったとのことでしたが、私たちの撮影場所では雨が気になるほど降らず幸いでした。

撮影対象は多様で、比較的古い古風な建物や、きれいに整備されたお寺、そして昭和時代を偲んでいる商店街などがありました。みな、それぞれのテーマに合わせて、様々な被写体を楽しみ、特に昭和の情緒漂う商店街では、レトロな雰囲気に包まれ、懐かしさを感じた瞬間を切り取ることができました。

この地域はかつて猫を大切にした時代があったとされ、それが街づくりのモチーフに反映されていたようでした。猫好きのメンバーたちにとってはうれしい風景でした。

また、昔繁盛していた店舗の名残が残っており、それら店舗ははかない雰囲気を醸し出していました。メンバーは皆、そんな寂しさや経年劣化した景色にも心を寄せながら、そこから感じる情緒をカメラに収めました。

そして猛暑日という厳しい天候にも負けず、メンバーは情熱的にシャッターを切り、街並みの魅力を引き出す努力をしました。 そこに地域の歴史や風情を写真に残すことで、私たち全員が思い出深い時間を共有し、それぞれ個性あふれる作品作りに励みました。

この撮影会は、古き良き時代の面影を残す中央線青梅駅近辺の街並みを通して歴史と文化を感じる貴重な機会となりました。 今後もじゃおクラブグラファーズは、様々な地域を巡り、写真を通じてそこの世界に目を向けていきたいと思います。

みなさんも自由に参加できる毎月の撮影会にぜひおいでください

（多摩・田園　露木　茂良　記・写真）

じゃおクラブの工作教室、子どもたちに大人気

夏祭りの工作コーナーに参加

じゃおクラブ多摩・田園は、8 月 26 日（土）に開催された「南大谷子どもクラブ『MOこもこ』」の「夏祭り 2023」に出展しました。これは、町田市の南大谷・玉川学園地区の様々な団体が協力して作り上げる年 1 回のお祭りで、小学生を中心に多くの子供たちでにぎわいます。じゃおクラブは、工作コーナーに参加しました。

子どもたちの笑顔に囲まれて

今回の出し物は、万華鏡、CD 独楽、バルーンアート、紙トンボです。加えて、子供たちの関心を引こうと「ぬいぐるみプレゼント」を行いました。これは、会員から大小取り混ぜて約 50 個のぬいぐるみが寄付されたので、万華鏡か CD 独楽を体験した子供に抽選でぬいぐるみが当たる企画でした。これが大当たりで、ぬいぐるみプレゼントの情報が口コミで広がり、大人気となりました。

子供たちが夢中で工作に取り組む姿は、私たちにとっても微笑ましいものです。万華鏡の担当は、いつも通り、玉木さんと山本さんです。万華鏡は作業工程が多くて、どうしても時間がかかります。上手に子供たちを導きながらの作業でした。

紙トンボは井村さんの担当です。ストローと牛乳パックでできており、竹トンボのように飛びますが、素材が柔らかく、周囲にぶつかっても傷つける心配がありません。今回は予め作ったものを無料でプレゼントしました。良く飛ぶのに驚くお母さんの姿もありました。

CD 独楽は、山脇さんの担当です。CD の図柄について説明したり、自分で図柄を描く子供たちにアドバイスしたりと、一人でこなすのは、なかなか忙しいのです。ここでは自分で描くタイプが人気でした。

さて、いつもながら、バルーンアートを作りながら子供たちに話しかける佐竹さんの話術には感心させられます。佐竹さんは、剣、犬、キリン、うさぎなど、子供たちの求めに応じて、次々と作りました。

雷雨で早めに撤収

残念ながら、1 時頃に急な雷雨があり、一時的に建物内へ避難するようにとの指示がありました。その後、雷注意報が出ていたので、1 時間早く 2 時に撤収となりました。しかし、それでも多くの子供たちと世代を超えて交流することができました。6 人の参加メンバーの皆さん、お疲れ様でした。

写真上：万華鏡作りの玉木さん

写真下：撤収後の記念写真

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）